

たいじょうほうしん 帯状疱疹

1. 「帯状疱疹」の症状

顔や体、腕、足の片側に痛みが生じ、そのあとで小さな水ぶくれが集まってできる病気です。水ぶくれは2週間前後で乾きますが痛みが残ることがあります。普通は発疹より痛みが先に出るのでその時期には片頭痛や肋間神経痛と診断されることがあります。普通は一度しかできませんが2回以上できることもあります。額にできた場合は眼のヘルペスができることがあります。頬やあごにできた場合は耳の障害や顔面神経まひが起きることがあります。重症の場合全身に水ぼうそうのような水ぶくれができることがあります。

2. 「帯状疱疹」の原因

小さいころにかかった水ぼうそうのウイルス（病原体）は体の神経の根っこに残ります。そのウイルスが、からだの抵抗力が弱った時などに活発になって出てくるのが帯状疱疹です。ウイルスが神経をいためるので痛みがあり、その神経が走っている部分の皮膚に水ぼうそうと同じような水ぶくれができます。

3. 「帯状疱疹」の治療

原因となるウイルスが増えるのをおさえる薬を使って治療します。薬には飲み薬と点滴があります。水疱が多い場合、痛みが強く体の調子が悪い場合、膠原病、腫瘍などの病気やその治療のために抵抗力が落ちていると考えられる場合は点滴による治療をお勧めしています。点滴治療は入院して1日3回、1週間程度行います。腎臓の機能の落ちている方は薬が体から排泄されにくくなり精神症状などが出ることもあるので薬の量を減らして治療します。これらの薬はウイルスを直接殺すのではなく増えるのをおさえる働きを持ちます。それに自分の抵抗力が加わって病気をなおします。そのため、治療を始めても効果がでるのに2、3日かかることがあります。飲み薬の治療でも症状がよくなるしない場合には入院して点滴する治療に切り替えることがあります。

水ぶくれのできたあとの傷からばい菌が入らないようにするため、抗生物質の軟こうを塗っていただきます。また、痛みに対して痛み止めの飲み薬といたんだ神経がなおるのを助けるビタミン剤、痛み止めで胃が荒れるのを防ぐ胃薬をお出ししています。



4. 「带状疱疹」は伝染しますか。

带状疱疹の方に接しても带状疱疹になることはありません。まれに水ぼうそうにかかったことのない人が接すると水ぼうそうができることがあります。

重症の带状疱疹で全身に水ぶくれができることがあり、この場合は水ぼうそうのように伝染しやすいので注意が必要です。その場合でも水ぼうそうにかかったことのある人にはうつる心配はありません。

5. 「带状疱疹」の生活上の注意

過労をさけ、規則正しい生活を心がけましょう。ただし、ずっと寝ているなど無理に安静にする必要はなく、何かしていたほうが痛みがまぎれます。食事の制限はいりません。痛い部分が冷えると痛みが増すので保温に心がけましょう。傷があるときは入りにくいかもしれませんが、可能なら入浴して暖めた方が痛みが和らぐことがあります。

6. 「带状疱疹後神経痛」はつらいと聞きましたが。

带状疱疹の治療をして1ヵ月後ごろには傷はなおり、痛みを感じなくなる方が多いです。しかし、痛みが続く場合があります。半年たっても10~15%の人は痛みが残ると報告されています。このような方に対しては痛み止めやビタミン剤を続けるとともに追加の治療をします。具体的にはうつ病やてんかんに対する飲み薬を追加したり、麻酔科（ペインクリニック）の先生に依頼して神経ブロックという注射をしていただきます。このような治療を組み合わせることで徐々によくなりますが治りにくい場合もあります。

なお、带状疱疹の初期に痛みが強く重症だった場合や治療開始が遅かった場合に带状疱疹後神経痛になりやすいとの報告もあるので、带状疱疹の出はじめに早くしっかりと治療することが大切です。

金沢医療センター皮膚科
平成21年1月作成